

令和7年4月1日

増田 義彦

令和7年度 豊田工業大学入学式 祝辞

皆さんおはようございます！

トヨタ学園、豊田工業大学、理事長の増田です。皆さんのご入学をお祝いして祝辞を述べさせていただきます。

学部へ入学、編入された皆さん、大学院の、博士課程、修士課程へ進学、入学された皆さん、おめでとうございます！また、ご列席のご家族の皆様をはじめ、関係の方々にも、心よりお祝い申し上げます。

本日の良き日を迎えることができたのは、ここに入学、進学した皆さんの力ではありますが、多くの人たちの支えがあつてのことでもあります。みなさんを支えてきた方々への感謝の気持ちも大切にさせていただきたく思います。

さて、本日ここに学部入学された皆さんは、たいへん良い選択をされたと思います。また、これから多くの出会いを、他に比類のない豊田工業大学で得ることとなり、たいへん幸運であるともいえます。自信を持って、新たな大学生活をスタートさせていただきたく思います。

大学での学びは、高校までの学びとは大きく異なります。大学での学びの“本質的な目的”は、“すでにある知を身に着ける”ことではなく、これまで誰も見たことのない“知を生み出す”ための能力を身に着ける」ということです。

本学は、“研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし”という豊田佐吉の遺訓を建学の理念として表看板に掲げていますが、もう少し具体的に、次のように学生を育てて社会に貢献することにより、理念を実現することに努めています。

それは、「豊かな人間性」と「創造的な知性」を備えた「実践的技術者」を育成し、合わせて深く専門の学術を研究し、もって学術・文化及び社会の発展に寄与する」という具体的な理念です。この理念には、みなさんが成長するための方向性として、3つのキーワードが、込められています。それは、一つ目は、“豊かな人間性”。二つ目は、“創造的な知性”。三つ目は、“実践的であれ”ということです。

本学には、他大学では経験できないプログラムが、幅広く組み込まれています。体験を重視した学習や、在学中は継続する教養課目・体育などのプログラムがあり、また、研究室配属になってからは、指導教官や博士課程で学位取得をめざす学生と共に、自らも試行錯誤しながら時代を切り開く研究に挑戦する環境があります。

本学で学び続けていく中で、気づけばきっと、自分の中に、“人としてのあたたかさ”や、“自分らしく思いを巡らす態度”、“実際にやってみようとする姿勢”といった大切な力が、少しずつ育ってきているはずです。そして、「進むなら、足跡のない方へ」思い切ってチャレンジしたくなるような、“誰も見たことのない知を生み出したい”という気持ちが、自分の中から自然と湧き上がってくる——そんな自分に出会える日が、きっとやってきます。私はそう信じています。

本学が設立されたのは、日本で自動車事業を興した豊田喜一郎氏が、その事業が発展した折には大学を設立し産業を支える実践的技術者を育てたいとの強い想いを抱いていたことに端を発します。その想いを継いで、トヨタ自動車の設立 40 周年を記念して社会貢献事業として大学創設が決定され、大学構想が練り上げられました。その結果、他に比類のない大学として、44 年前の 1981 年に豊田工業大学が開学しています。本日の式典は、大学設立への想いを強く抱いていたトヨタ自動車創業者である豊田喜一郎氏の名前を冠した記念ホールでの開催となっています。

また、みなさんに来ていただいているキャンパスは、5 年前の 2020 年に、トヨタ自動車はじめ、多くの会社からのご寄付により完成したものです。新装されたキャンパスでは、より良い教育・研究ができるように各所に工夫を凝らしてあります。規模の小さい大学ではありますが、学生一人当たりの床面積でみると、日本屈指の広さがあり、たいへん余裕のある空間を学生の皆さんは利用することができます。

ここで、「大学での学び」について、私の体験談を交えてすこしお話をします。

「大学での学び」は高校までの勉強とはかなり違います。

専門につながる“基礎講義”については、それぞれが難しく、みなさんの中にも、挫折を経験する人が、間違いなく、でてくると思います。

また、“教養科目”については、「工学を学ぶために入学したのに何でこんな講義を聞かなきゃいけないの？」という気持ちになる人が多くいるのではないかと思います。

もう 50 年以上前のことですが、私が大学に入学して講義が始まった時、まったくこの通りでした。基礎講義は理解できない、教養課目は面白くない、ということで、沢山の単位を落としました。そのため留年を覚悟していましたが、当時たまたま運よく単位制度が変わって 3 年生に進級できた思い出があります。

工学基礎では、線形代数が大きな壁になる人が少なからずいると思います。私は結局、単位が取れませんでした。今思うと、それは、「大学での学び」について無知だったからだ、と思っています。高校時代の数学のように「問題が解けること」、という意識で線形代数に接したので、数理によって、描き出し、広げていく概念的世界の面白さ、つまり「概念が作り出す世界」を学ぶのが数学だということが、わかって無かったと思っています。

たとえば、現在、時代を変えるといわれている生成 AI は、その背後では専用のコンピュータチップを使って巨大な次元のベクトル演算、膨大な行列演算をすることで、“知性といえるような性能”を可能としています。このように、線形代数は現代工学の世界を理解するための基本なので、この数理が描き出す「概念」が多少なりともわかるように勉強して、私の二の舞にならないで欲しいと思います。

他の科目についても、「概念が作り出す世界の面白さを、なんとか自分のものにしよう」という勉強がみなさんにとって「大学での学び」のスタートになるかと思っています。

次に、教養科目については、簡単にいえば、“何かのために学ぶ”ものではありません。「文化のこと」、「社会のこと」、「自然のこと」、「人間そのもののこと」、などについて、自分の中に、興味を芽生えさせ、“知りたいことを無目的に学ぶ”時間が与えられているのだ、と思ってください。実は、この学びが将来の皆さんにとって一番の力になります。これは、私自身が社会人となり、その後、組織リーダーとして活動した経験から言えることです。

学部新入生のみなさんには、高校までの勉強とはちがう“大学での学び”に早く気づいて、新たな大学生活を有意義に送ってくださることを期待しています。

大学院の修士課程に入学、博士課程に進学されるみなさんに向けては、次のことを意識していただきたく思います。これは、毎年、同じことを述べています。

私が長く開発技術者として働いてきた経験から、「他人が考え生み出したこと」と「自分が考え生み出したこと」とをきちんと区別できる力が、非常に重要だと感じています。これは、言い換えれば「オリジナリティへの敬意」を持つ学びの姿勢とも言えるでしょう。この姿勢が、みなさんが、開発技術者や研究者として健全に成長するための原動力となります。また、「自分が自分であることを、相手に伝わるように表現できる力」を育むための土台にもなります。

これからの研究活動は、まさにこの「オリジナリティへの敬意」を自分の内に根づかせていく時間となるはずです。ぜひ、多くのチャレンジを重ねていってください。

本日は博士課程に進学される方も参加しています。

いろいろな要素が高度化し絡み合っ先が読みにくい時代になっています。このような時代に、「時流に先んずることのできる」資質は、博士研究による鍛錬によってさらに大きく伸ばすことができます。このような成長の場を提供するため、博士研究を指導する優れた教員団や研究環境に加えて、皆さんが学位取得するまでの生活資金の支給もするフルサポートでの奨学制度を本学では提供しています。また、工学博士号を授与された方々が、就職に困っていることはありません。充実した博士課程があることは、本学の大きな魅力です。ぜひ本学の博士課程をさらに輝かせる一員として活躍していただきたく思います。

最後になりますが、

健康を第一にいただき、そのうえで、誤りや失敗を恐れず、仲間や教員と語り、これからの学生生活を、自分なりに思いっきり過ごしてください。

これをもちまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。